

令和6年度 第10号

令和7年2月3日(月)発行

学校教育目標:「ひと」とともに生きる生徒の育成

学校 Web ページ



# 植竹中だより



目指す生徒像:自ら考え、行動できる生徒「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」1日を満足させる さいたま市立植竹中学校  
〒331-0804 さいたま市北区土呂町352 TEL 048(663)2115 FAX 048(665)6377

## 何気ない風景の中に

校長 上 続 昌 司

2月になりました。例年、寒い日が多いという印象があります。特に朝夕の寒さは、身に沁みますね。2月と言えば節分を思い浮かべます。「2月2日は節分ですね」と、紹介すると「間違っています、3日です」と返されるかもしれませんが、2025年は2月2日が正解です。立春の前日が節分と決められていて、今年2月3日が立春なので、その前日の2日が節分となります。実は、私も知りませんでした。カレンダー等で確認してみてください。立春は、二十四節気の一つで、冬が終わり春の訪れを示します。二十四節気は立春から始まり、旧暦では立春の頃に元旦がめぐってきたので、立春は新しい年の始まりを意味していました。また、節分と言えば思い浮かべるのが「豆まき」だと思います。冬から春の季節の変わり目は寒い日が多く、体調を崩しやすいこともあり、邪気(病気や災害)が入りやすいと考えられてきました。平安時代に邪気の象徴「鬼」を祓い、清めて無病息災を祈る儀式として行われ、室町時代以降さらに広まっていったそうです。マメ知識として覚えておくと良いですね。

さて、普段何気なく見ている風景等から感じ、想う事を紹介したいと思います。正門から入って、保健室前には掲示板があり、毎月、その季節やタイムリーな話題をきれいにレイアウトした掲示物が出迎えてくれます。そこから昇降口に向かう両側には、紫、黄色、薄いピンク等のきれいな花があり、毎朝心を癒してくれています。ものすごく寒い日も一生懸命に咲いています。職員玄関の赤い絨毯は、いつもきれいで小さなホコリでさえも良く見ないと分からないほどです。昨日は、端っこの画びょうが取れていた掲示物が、今日見てみると、しっかりと留められています。朝、ぎりぎりに登校してきた人の外履きが下駄箱に曲がって置いてあったとしても、帰りにはキチンとかかとかが揃えられています。消し忘れた教室の照明は、移動教室から帰ってくると消えています。机や椅子が曲がっていたり、列からはみ出したりしていたのに朝来るときれいに並んでいます。図書館に行くと中学生が興味をもってくれそうな本を、見やすい場所にセットして、貸し出されるのを待っている本があります。毎朝、新鮮な空気が学校中に流れるように、廊下の窓が開けられています。そして、みんなが帰った後、しっかりと施錠されています。他にも、知らぬ間に整えられていたり、みんなが気持ちよく生活できるように工夫されていたりしている場所や物等で溢れています。

毎日、何気なく見ている風景ですが、よく見ると「誰かが整えてくれている」跡があり、心が温かくなります。学校内だけではなく、登下校で見ている風景、買い物で出かけた時に電車から見える風景、旅行先で見る風景、どこに行っても「誰かが整えてくれている」跡を見ることがができます。そこには、その整えてくれた人達の温かい心が見えてきます。みなさんも何か気づくことがあれば、整えてみてください。その時は、誰も見てくれていなくても、その後、気づく人がいるはず。そして、直接「ありがとう」って、言ってもらえなかったとしても、気づいて整えた人、あなた自身の心が温まっているはず。そんな何気ない行為の跡が、今日も、明日もたくさん見ることが出来る事を楽しみにしています。